

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272200132		
法人名	有限会社グループホーム天意		
事業所名	グループホーム天意		
所在地	長崎県五島市大荒町1310番地12		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年10月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念に基づいた家庭的な雰囲気の中での共同生活で残存能力を発揮して頂き、日々満足感が得られるような支援に努めている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>22年5月1日に新管理者が就任した。新たな職員体制のもとでチームワークを強めており、日々、介護の質も確実に向上してきている。食事への配慮も続けられ、運営者がお米や野菜を作っておられることから、新米や採れたての野菜を使った料理の他、獲れたての魚を漁師から直接買入れできている。ご利用者は、ツウやきびなごなどの食材の下ごしらえや味見、下膳など、食事作りに参加され、職員や他利用者との会話をしながら、手作りの美味しい食事と一緒に楽しませている。お花が好きな方は、職員と一緒に園芸店に行ったり、チラシを見て売り出しの買い物に行く等、それぞれの意向に応じた外出支援が行われており、季節に応じて、菜の花やコスモスの花見に出かけたり、富江町、玉之浦町への港めぐりドライブ等、積極的に外出を楽しませている。日頃からホーム内の掃除が行き届いており、来訪された方から「いつも綺麗にされていますね」と感想を頂くことも多い。トイレ掃除もこまめに行い、香りがある花を飾ったり消臭剤を使うことで、ホーム内に臭いがこもらない工夫もされている。22年7月から、アイドル犬“ぼんた君”がホームの一員に加わっており、更に明るさが増しているホームである。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員にも、施設長が直接理念について話している。会議等の時、理念の振り返りを行い、実践につなげている。	職員の入れ替わりが若干あったが、22年5月から新管理者が就任し、新たな体制のもとでチームワークを強めていっている。『笑顔と元気で温かい介護でほっとする家庭』『「その人らしさ」の尊厳を「自己決定権」と捉え、今、その人にある機会を活かす介護を探索しよう』という理念の実践は続けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭、敬老会等の行事、事業所の運動会には、近くの保育園児への参加の声掛けを行っている。	事業所の合同運動会には、地域の保育園児の他、近隣の方が多く参加され、ご利用者も張り切って参加された。ディサービスの新築移転時に行った“餅まき”に、地域の方々の参加があつた。納涼祭や22年度初の敬老会では、奈留島や富江の地域のボランティアの参加も多くみられ、地域の方々との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のほとんどの方に参加して頂いている。活動報告や実績報告を行い、参加者から出た意見については、サービス向上に生かすよう取り組んでいる。ただご家族の参加が少ないので、参加できる体制の構築も必要である。	ご利用者やご家族、町内会長、市の担当者の方が集い、2か月に1回開催しており、会議には、ほぼ全員のご利用者が毎回参加されている。町内会長や市の担当者の方へ、ホームの活動状況や会議の議題などを盛り込んだ会議資料を事前にお届けしており、会議の場で具体的にご意見や質問が頂けるように工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内や実施報告、退所・入所届出、介護保険更新認定申請等で担当窓口で質問や確認をしている。	介護保険の申請等も含めて、市の窓口へ訪問する機会を随時作っている。市の担当職員とは顔見知りになっており、ホームの状況を報告している。市の担当者の方が、毎回ホームの運営推進会議に参加されており、相談を行った時も親身に対応して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間どうしてもリハビリパンツ等を脱いでしまわれ方に対して、介護衣を使用することもあるが、家族の同意を得て一時的な使用で済ませることが出来ている。職員一丸となり拘束しないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束に関する研修に参加しており、伝達研修も行われている。ホーム内を歩き続けることを好まれるご利用者には、職員の見守りのもとで自由に歩いて頂いており、職員がご利用者の見守りや関わりを行うことで、身体拘束を行わないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長・管理者が研修を受け、会議時に確認している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会があるときには出席し、会議時職員にも伝達を行い、必要な人には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が、家族・本人に対して説明を行っている。担当者からも不安や疑問点について尋ね、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃より運営について、施設長に伝えている。	前回の外部評価以降、ご家族に、ホームの行事に参加頂く機会を増やすために声かけを続け、参加人数が増えてきている。面会時の報告と合わせ、“天意だより”をご家族へ送付し、意見を頂けるように努めている。「足腰が弱らないようにしてもらいたい」との要望があり、ホーム周辺を体調を見ながら散歩をしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議以外の時でも、職員の気づき等から意見の提案を言いやすいような雰囲気作りにも努め、運営に反映するようにしている。	月2回の会議には職員全員が参加しており、行事の反省会等も行っている。日常のケアに関するアイデアも多く出ており、職員が意見を伝えやすい環境ができてきている。社長にも意見が伝えやすく、施設長も日々の頑張りを見て下さり、評価をしてくださる。新しい管理者とも話しやすく、プライベートな相談もできる関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ全職員が、研修を受けられるよう配慮し、資格取得も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の合同開催や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また複数事業所連携事業が行う勉強会に職員も参加し、ケアに生かしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作り、本人・家族の不安なことなどをお聞きし、職員全員で受け止めていけるように話しあい等をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。また、何げない言葉にも耳を傾ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスは何かを見極め全職員で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、できるだけ一緒に過ごす時間作りを、仲間作りの支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻回の訪問をご家族にもお願いしている。職員も話す機会を作り、一緒に支えあう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院にお連れしたり、商店街に買い物に行く等して関係が途切れないよう支援している。	ご本人やご家族から馴染みの人や場所を教えて頂き、美容院やお店等にお連れしている。「地元の友人や親戚の方と楽しい時間を過ごしたい」という希望も聞かれ、支援が行われている。離島から民生委員の方が訪問して下さったり、以前関わって下さっていたヘルパーさんが訪問して下さるなど、馴染みの方々の面会も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士で買い物やドライブや調理等を行い、関わりを深めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者・家族には、いつでも相談・支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや願いを叶えられるよう前向きに検討している。	食事作りや入浴中の会話の中から、ご利用者が語られる思いや、面会時にご家族が話されるご希望については、職員全員で経過記録に残すようにしている。計画作成担当者が、独自のアセスメント書式を使い、ご利用者やご家族の意向をまとめており、職員全員で情報共有ができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・サービス事業所等から情報収集し、生き方を変えることなく、その人らしさを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの意思を尊重し、自分らしく過ごして頂いている。また出来ること・出来ないことの見極めを行い、その利用者の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族、必要な場合に主治医等と話し合いを行い、意見等を聞き、介護計画を作成している。	計画作成担当者が原案を作成し、月に1回の会議の中で原案の検討が行われている。計画は、ご利用者等にわかりやすい言葉で表現されており、囲碁や編み物、お店での買い物など、ご利用者の楽しみごとや地域で暮らす視点も盛り込まれている。ご本人にとって無理のないプランとなっており、ご家族や主治医の役割も明記されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や健康チェック表等に個別に気づき等を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を続行しているが、診療科が違う場合は、総合病院を受診している。	希望するかかりつけ医に受療して頂いており、主に管理者やホームの看護師が通院介助を行っている。受診結果に変化があった時や体調の変容がある時には、随時、ご家族へ電話連絡をしている。緊急時には、24時間住診頂ける医療連携体制ができており、体調変容時には細めに相談することで、早期発見、早期治療に繋がられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が相談相手になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、お見舞いや洗濯のお世話をさせていただきご家族・主治医・看護師長と連携を行い、早期退院等の相談援助をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化となった場合は、ご家族の許可の下、かかりつけ医、ご家族、職員で話し合いをしている。	「最期は、ここ(ホーム)で・・・」と希望されるご利用者やご家族も多い。かかりつけ医や病院看護師との医療連携を取りながら、21年度、ホームで初めての看取りが行われた。「終末期の介護について、心をこめてこれを行うこと」という、全職員の共通の方針のもと、随時、医師やご家族との話し合いを続け、職員全員で終末期ケアを行った。ご家族からも、感謝の言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内の看護師を中心に、職員間でも変化に備えての検討や準備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については、マニュアルを作成し、消防署の協力の下、訓練を行い、近隣の住民にも協力をお願いしている。	年に2回、ご利用者と一緒に避難訓練を行っており、五島市消防署の方にも参加して頂いている。以前から、近隣の方には非常災害時の協力をご依頼しており、昨年の5月の避難訓練には近隣の方10名が参加されている。災害時に備え、缶詰や野菜、オムツ、毛布などが準備されている。	昼夜の火災を想定した訓練が行われているが、水害を想定した訓練も必要と考えておられ、今後、検討が行われる予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう言葉遣いや対応に配慮している。	職員にとって、ご利用者は人生の大先輩であり、日頃から「ご利用者から学ばせて頂く」という姿勢を持ってご利用者と接している。職員は、ご利用者のお気持ちを大切にしており、排泄や入浴等への声かけは、ご利用者のその時の気持ちやプライバシーに十分に配慮しながら行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表現できるよう場面作りを心掛けている。何気ない言葉の中にも思いがあることを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にしながら、買い物、散歩等その日の気分状態等出希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の洋服や髪形に職員も気かけながら、その人らしく支援を行い、行きつけの美容院にも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳の準備等を職員と一緒にしている。	運営者がお米や野菜を作っておられることから、新米や採れたての野菜を使った料理の他、職員がとれたての魚を漁師さんから直接買入れている。ご利用者は、ツツやきびなごなどの食材の下ごしらえや味見、下膳など、食事作りに参加されている。職員や他利用者との会話を楽しみながら、手作りの食事を一緒に楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量について、職員はよく観察し、水分等が摂れていない時は、こまめにとって頂き、食欲がない時は、おにぎりにしたりにして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来づらい方には、介助したり、見守りで毎食後声掛け等を行いつけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを知り、必要最小限のおむつ使用を行い、日中はトイレ誘導を行っている。	ご利用者ごとの排泄のパターンを把握し、個別に応じた声かけを行うことで、できる限り、トイレでの排泄ができるように支援をしている。オムツをはずされる方についても、時間毎にトイレへお誘いすることで、トイレで排泄されるようになり、オムツの使用回数も減ってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある物やヨーグルト等薬に頼らずなるべく食べ物や適度な運動の声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、個々の希望に曜日や時間をずらす等配慮している。	入浴の時間は特に決めていないため、毎日入浴されている方もおられる。安全確保のために、マットの下に滑り止めが使用されている。入浴時間中は、他者や職員も極力入室を控え、着脱時はタオルを使うなど羞恥心にも配慮している。湯船にゆっくりつかりながら、職員との昔話を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促しているが、その時々状況で、安心して休息や睡眠を摂られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力を生かして、役割、趣味等楽しみごと日々の生活の中に気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外食等の支援をしている。	お花が好きな方には、職員と一緒に園芸店に行ったり、チラシを見て売り出しの買い物に行く等、それぞれの意向に応じた外出支援が行われている。季節に応じて、菜の花やコスモスの花見に出かけたり、富江町、玉之浦町への港めぐりドライブ等、積極的に外出を楽しまれている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に行かれた時に、本人に出して頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をいつでもかけられるよう支援し、番号等が分からない時は、調べて電話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節の花を生けたり、台所は料理の匂いや包丁の音、CDの音楽を流して、居心地のよく過ごして頂いている。	日頃から掃除を徹底しており、来訪された方から、「いつも綺麗に掃除されていますね」との感想を頂いたこともある。トイレ掃除をこまめに行い、香りがある花を飾ったり、消臭剤を使うことで、ホーム内に臭いがこもらないように工夫している。居間では、有線放送がかけられているが、音量にも配慮しながら、ご利用者が好まれる音楽をかけており、ご利用者にくつろいで頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファと畳の間があり思い思いに過ごして頂き利用者同士で会話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・写真等、本人が居心地良く過ごして頂く事を支援している。	フローリングと畳の2種類の部屋があり、ご自宅の部屋と同じように、物の配置や飾り付け等にも工夫が施されている。ご利用者は、自宅で使っていたタンスや椅子、長年愛用されている囲碁セットなどを持ち込まれている。歩行が不安定な方には、トイレまでの動線を短くするために、バットの位置を工夫するなどの配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・風呂場・トイレ等には、手すりを設けている。		

事業所名: グループホーム 天意

作成日: 平成 23 年 1 月 17 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今まで水害の被害は受けていないが、他県等で水害事故があったことと大雨時道路に多量の水が発生することをから水路に問題が見られると思われる。	年2回の自衛消防総合訓練時に1回は、水害を想定した訓練を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で話し合いを行い、市建設課へ相談を行う。</li> <li>・水害を想定した訓練を行う。</li> </ul>	12 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月